



BHUTAN

学校名：東京学芸大学附属国際中等教育学校

氏名：藤木 正史

[担当教科：社会、日本史]

- 実践教科等：国際教養
- 時間数：2時間
- 対象生徒：中学2年生
- 対象人数：58人

[1]単元名

ブータンを通して考える“幸せの指標”

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

- ・ブータンのGNHを通して、“幸せの指標”についての考えを深める。
- ・クラスの幸福度を向上させるための“幸せの指標”を作成しよう。

[3]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【幸福ってなんだろう?】 【ブータンって本当に幸福?】	<ul style="list-style-type: none"> ・ブータンのイメージを問う ・Unit Question『幸せは何によってきまるのか?』と、Goal『みんなの“幸せ指標”をつくろう!!』を発表 ・学級の幸福度数を計算 ・ブータンの幸福度数(2005年)の提示 ・ロールプレイング(朗読劇)を行い、ブータンが抱える問題に気づく ・ロールプレイングのふりかえりと、GNHの確認 ・生徒が調べたGNHに関する意見などの共有 ・ブータンの幸福度数(2010年)の提示 ・GNHの調査方法の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・ワークシート ・Web サイト ・朗読劇台本 ・パワーポイント ・『GNH2010 アンケート』 ・夏休みの課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な発言
2	【みんなの“幸せ指標”をつくろう】 【まとめ】	<ul style="list-style-type: none"> ・幸せだと思うこと、幸せを感じることの共有 ・自分たちのクラスの幸福度を向上させるための指標の設定とポスターの作成 ・“幸せ指標”ポスターの発表と共有 ・『幸せの公式』の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・パワーポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークへの貢献 ・ポスターの完成度

[4]授業の詳細

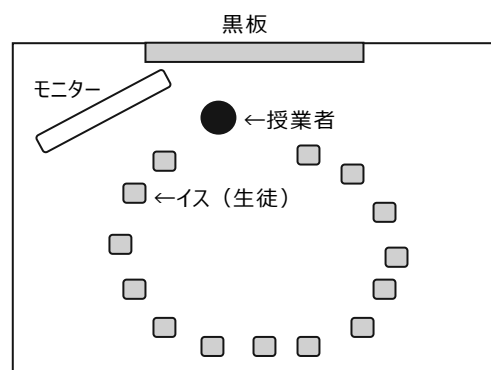
1 時限目：【幸福ってなんだろう?】

準備・導入・場づくり

教室の状態：ワークショップの一体感をだすため、また次に行うロールプレイングのために教室の中心にイスのみを持ち出し、大きな円を描いて参加者は座っている。

- Q.「ブータンと聞いて何を思いうかべますか?」(ブータンのイメージを問いかける)

生徒からは、「幸福」「国王」「GNH」「チベット仏教」「食べ物が辛い」などの答えがあがる。



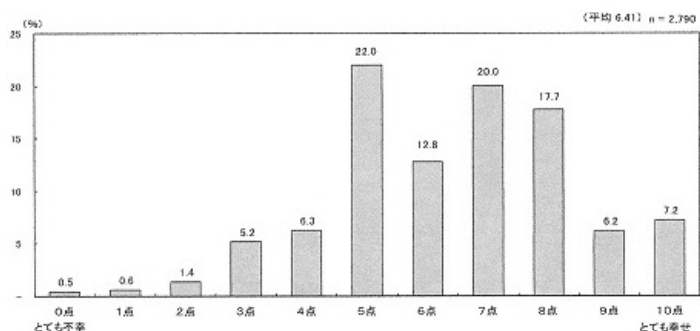
※こうした反応の背景として、事前に『ブータンが提唱する GNH についての考察(①ブータンが提唱する GNH とは、②GNHに対する私の考え)』を課していたこと、授業者による第 2 学年(授業対象学年)全体へのブータン研修報告会、2011 年のブータン国王の来日とそれにとまなう、マスメディアでのブータンに関する報道など、が挙げられる。

- Unit Question『幸せは何によってきまるのか?』と Goal『みんなの“幸せ指標”をつくろう!!』の提示ワークシートを配布し、本時の趣旨と Goal を明確にし、ワークシヨップ全体の流れを参加者全員で共有する。また、グランドルールとして、「人の話は最後まで聞く」、「人の意見を否定しない」、「積極的に!!」を確認。
- プレ・アクティビティ「クラスの幸福度をはかろう!」(場・雰囲気づくり)

まず自分の幸福度を「0 点(とても不幸せ)から 10 点(とても幸せ)」の 11 段階で評価、その後クラス全体の平均値を計算し、クラスの幸福度数を算出。あるクラスでは 5.2 点、またあるクラスでは 7.1 点となった。そこで、内閣府が行った『平成 23 年度国民生活選好度調査』(右図)の結果を提示し、日本人の平均値(6.4 点)とその傾向(日本人は、多くのアンケートで平均を選ぶ傾向がある)を確認し、他クラスとの比較などを行った。

Ⅱ. 平成 23 年度国民生活選好度調査結果

問 1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸せ」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。いづれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください。



- Q.「ブータンでは、どのくらいの人々が“幸せ”であると言っているか知っていますか?」(事前学習の確認)

生徒からは、国民の 97%の人々が「幸せである」と答えた、2005 年の調査結果が回答される。

※2クラスでワークシヨップを行った結果、97%という回答以外はでなかった。つまり、日本では報道やTV番組、書籍やインターネット等でも 2005 年の調査結果を大きく取り上げ「幸せの国ブータン」というイメージが形成されていることがわかる。この点は、調査の信用度とブータンの実情という部分で今後の展開の伏線としている。

- 朗読劇(ロールプレイング) **問題・課題の共有**

「ブータン=幸せ」という多くの人が持つイメージにゆさぶりをかけるため、朗読劇でブータンが抱える問題について理解する。

設定:「ティンブー在住の日本人がブータン・ナショナルディを祝う会を開いた席での一場面」

舞台	首都ティンブー市内のホテル。ブータン・ナショナルディ(12月17日)を祝うブータン在住日本人が集まり、みんなで食事をしている。
登場人物	<ul style="list-style-type: none"> ■ JICA ブータン所長(男性:50歳)…落ち着いた感じのしゃべり方 ■ JICAシニアボランティア(男性:67歳)…すでにシニアボランティア3か国目。若者の成長が楽しみ。 ■ ブータン在住1年目の奥さん(女性:23歳)…旦那さんの仕事の関係でブータン在住になったものの、まだ不安の方が大きく、心配が絶えない。 ■ ブータン在住20年の奥さん(女性:42歳)…20年前に旅行に来たブータンで、現在の旦那さん(ブータン人)と恋におち、そのままブータン在住。とても元気。 ■ ティンブー市職員(男性32歳)…学生時代からブータンが好きで、とうとうティンブー市の職員となり、現在は環境・衛生面を担当している。 ■ その他…ブータン在住の日本人のみなさん(上記の人物担当以外の参加者)

とくに、「野犬の問題」、「ごみ処理の問題」、「若者の雇用の問題」を軸に、GNHの四つの柱や、ブータンの主要産業である建設業と観光業をめぐる問題、多くの労働者がインド・パキスタンからの出稼ぎ者であること、などブータンの国情についても把握できる内容とした。台本の内容については、研修時やその後の調査などで収集した情報を盛り込んでいる。

● 朗読劇のふりかえりと GNH の確認 **収束**→**拡散(対話)**

パワーポイントを使用し、ブータンをめぐる問題と GNH についてのふりかえりと確認を行い、情報を共有化す。その際、夏休みの課題として課した「GNH に対する私の考え」を使用した。今、学んだことと自分で調べたことをリンクさせることを目的に、数名の生徒に課題をふまえて、GNH やブータンという国に対する意見を発表してもらい、他の生徒からうなずきや質問をかえすことで、対話を促した。

生徒のレポート抜粋

生徒A: 国民のみんなが幸せだと思っていることは、とても良いことだと思います。ですがこれはブータンだから通用することであり、日本人からしたら理解できないんじゃないかと思いました。(中略) 日本はもう発展しすぎてしまって GNH の四つの柱と九つの分野を満たしていても幸せだと答えられる人は少ないんじゃないか?というのが私の考えです。けれどもこれは物などに富を求めすぎない考え方で人間が初心に戻れて良いのではないかと思います。

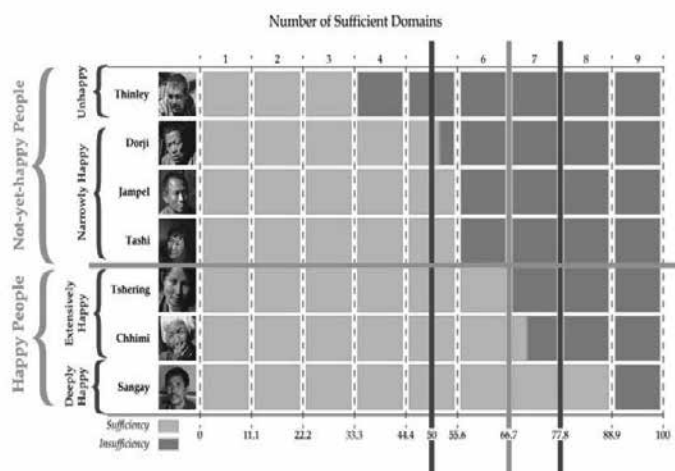
生徒B: 私は、GNH は良いと思うけれど、とても大変なものだと思います。(中略)ブータンでは医療も教育も無償で提供されます。しかし、ブータン政府の歳入・歳出を見ると、自主財源だけではまかないきれません。そのため、ブータンのまわりの国々(インド等)からの援助に依存しています。元々、無償で提供しなければ、と思うけれどそれでは国民の幸せ度が下がってしまうのです。(中略)このように GNH を提唱して人々の幸せを一番に考え発展させようとするのはとても良いと私は思いますが、中をあけてみると問題がたくさんあってとても大変です。この問題を解決するためには少しの負担も理解できるという国民の考え方が必要ではないでしょうか。

生徒の中には、事前課題を通してブータンが抱える現状をかなり正確に把握している者、幸福度をががかることの難しさを感じている者もいた。

● ブータンの幸福度数の提示(2010年)と、GNH アンケートの調査方法 **新しい気づき**

ブータン研究所発表の資料(右図)を利用し、2010年のブータンの幸福度数が40.8%であることを提示し、朗読劇とあわせて、「ブータン=幸福」という思いこみに対してさらに“ゆらぎ”を与えた。

Karasa Ura, Sabina Akhri, Tshoki Zangmo & Karasa W'angdi



2010年度調査: 政府調査員による対面調査。調査委対象7,142人(人口の1/100)。9分野33項目に関して聞き取り調査を行い、項目ごとにポイントを設定しトータルの達成率が、77~100%が「とても幸せ」、66~76%が「まあまあ幸せ」、50~65%が「少し幸せ」、0~49%が「幸せでない」と定義した。幸福度数40.8%は、「とても幸せ」と「まあまあ幸せ」を足した割合。

2005年度調査: 政府調査員がブータン全土の人間(外国人を含む)を対象に、「人口」「健康」「家族」など様々な分野についてのアンケートを行った。「幸福度」に関する調査は、「家族」に関する質問項目のひとつで、「とても幸せ」「幸せ」「あまり幸せでない」の三択。「とても幸せ」「幸せ」を足した割合が、96.7%。

生徒は、調査方法が違うこと、日本ではほとんどが2005年度の調査結果に基づいて報道等がされていること、調査の信用度についての気づきを得ていった。

2 時限目:【みんなの“幸せ指標”をつくろう!!】 **拡散・収束**

ワークシートを利用して、「あなたが幸せだと思うこと、幸せだと感じることを書きだそう」(**拡散**)を行い、グループをつくりお互いに共有していった。また、授業者は、教室内をまわり、おもしろい意見や、対話のきっかけになる意見あどがあれば、随時フロアに発信していった。

● “幸せ指標”ポスターの作成と発表 **収束**

クラスを“幸福度”をはかる対象として設定し、その対象にふさわしい指標と調査方法をポスターにまとめて発表した。その調査で幸福度が 100%に到達した場合、クラスの全員が快適に楽しく充実して学校生活を行っている、ということを目的とした。発表時には、その意図や調査結果の計算方法なども説明させ、質疑応答などを行った。

調査項目としてあがったもの

- クラスに対して貢献できることがあるか
- 教室の環境は快適か、教室がきれいか
- 食べ方がきれいな人はクラスの中にどのくらいいるか
- 学校で1日にどのくらい笑えているか

● “幸せの公式”の提示 **気づきと継続**

「幸せ＝財／欲望」という公式を提示し、ブータンの人々の深層通念として存在する「足るを知る」という考えを紹介しつつ、幸福についての認識を今後も考え続けていってほしい、として授業をまとめた。

[5]児童・生徒の反応/変化

新たに知るブータンについての情報、とりわけ GNH の調査方法と、実際に行われた調査のアンケートを提示した時には、大きな反応があった。生徒にさらなる興味・関心を抱ききっかけをつくれたと考える。ブータンという国を別の視点で捉えることができるようになったと考える。

[6]授業実践の成果と課題

課題として、1 時限目と 2 時限目のつながりが挙げられる。1 時限目のブータンをとりあげた具体的な話題から、2 時限目の幸福度調査を自分たちでつくろうという抽象的なものへつなげ、内容の一般化をはかったが、その点に乖離があったと感じている。

成果として、朗読劇をおこなった後にふりかえりをして内容や話題を深化させる、という試みはある程度達成できたと考えている。ワークショップを行う上で、いかにしてその後のアクティビティに必要な情報を共有していくか、という点について挑戦ができた。

[7]参考文献(引用文献・参考資料)

- 「平成 23 年度国民生活選好度調査」<<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- 「An extensive analysis of GNH index」<<http://www.grossnationalhappiness.com/>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- 「The Second Gross National Happiness Survey Questionnaire April2010」
<<http://www.grossnationalhappiness.com/survey-results/index/>> (2012 年 12 月 16 日アクセス)
- 第 1 回ブータンシンポジウム「変わるブータン、変わらぬブータン—GNH への挑戦—」、日本ブータン友好協会主催、2012 年 12 月 16 日開催
- 「わたしたちの生活と未来 ブータン王国」公益財団法人愛知県国際交流協会、2012 年

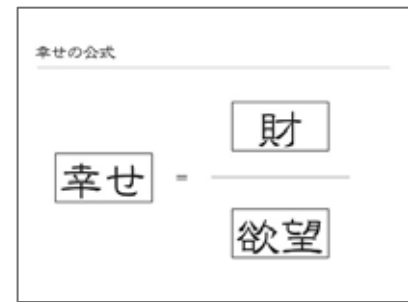
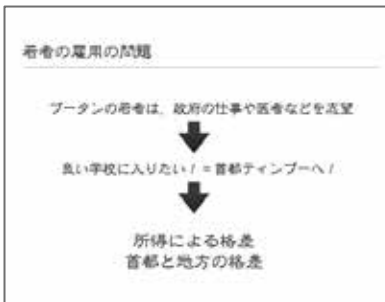
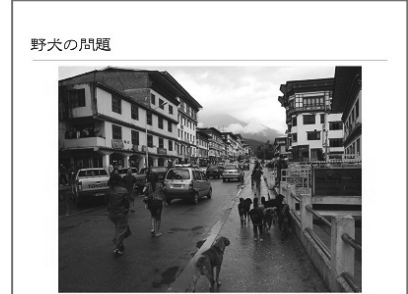
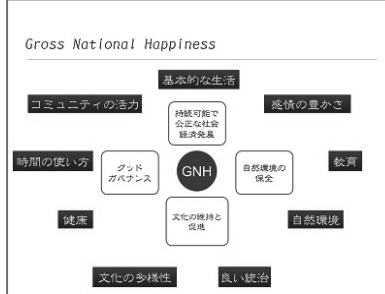
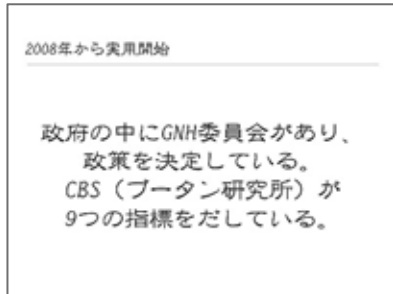
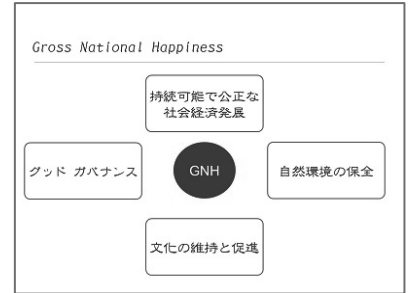
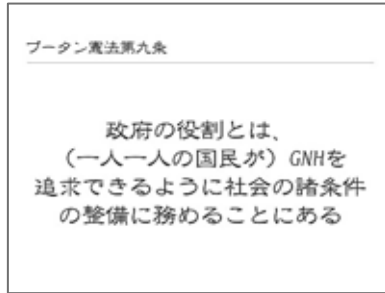
[8]教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

教師海外研修で、はじめて途上国における支援の現場を訪れた。開発教育の勉強をしていた私にとっては、JICA が行っている支援のいくつかの現場に訪れ、担当者から話を聞くことができたことは、とても重要な機会だったといえる。社会科の教員として、授業で生徒に伝える内容はできるだけ、自分で見聞きしたものでありたいと常に考えている。その意味で、ブータンで見聞きしたことはとても魅力的で、生徒に話したいと思えることばかりだった。

その一方で、消化不良であることもまた確かだ。国家として GNH を推進していくブータンという国の未来、政府の GNH 政策の検証、GNH の国民への浸透度や意識、チベット仏教について、ブータン王室の存在、ブータンにおける支援のあり方、ブータンと周辺諸国との関係、など、様々なテーマの切り口をもっと深化させることができると考えている。様々な側面からとらえたブータンを素材とするアクティビティやワークショップの事例を、ぜひまとめていきたいと考えている。

[9]使用教材(写真/図などの実物)

使用したパワーポイント



添付2 ワークシート

国際教養
単元名: ブータンを通して考える "幸せの指標"

2年 組 番 氏名 _____

今回の課題 ①ブータンのGNHを通して、"幸せの指標" について考えを深める
②決定した指標が象徴するものは、"幸せの指標" を作成し、効果的にプレゼンテーションをする。

Unite Question: "幸せ"は何によって決まるのか?

あなたの幸福度は? _____ %
→ クラスの幸福度は? _____ %

「みんなの "幸せ指標" をつくろう!!」
1. あなたが幸せだと感じることをたくさん書きだそう。

2. "幸せ指標" ボスターをつくる 班 メンバー: _____
対象: _____ ex. 友達関係、学校、地域、国

対象の "幸福度" をはかるには、どんな指標が考えられるかな?

授 業 実 践

第3期 娯楽新聞

プータン・ナショナルデー（12月17日）のお祝い@ティンプー市内のレストラン

あなたの役割：プータン在住の日本人の皆さん（今日は楽しみましょう！！）
 重要な「参加者全員」のセリフを元気よくお願いします！！

ナレーション	セリフ 今日は、プータンのナショナルデーです。プータン在住の日本人のみなさんが、首都ティンプーのレストランに集まって、お祝いをしています。
JICA 古家所長	「みなさん、本日はお集まりいただきありがとうございます。忘年会もかねて楽しみましょう。乾杯!!」
参加者全員	「乾杯!!」
ナレーション	JICAプータン所長は、今年の暮にプータンにやってきました本田さんに話かけました。
JICA 古家所長	「本田さん、いかがでしたか。プータンの1年目の暮らしは？ 何か困っていることはありますか？」
本田さん	「そうですね。プータンの人たちはみんな親切で、思いやりがあって、さすがGNHの国だな、と思いました。」
JICA 古家所長	「ただ…、どうしました？」
本田さん	「ティンプーの街中に、たぐさんの野犬がいるのには驚きました。かまれたら狂犬病になると思いますし、5歳の息子がいるので心配です。つかまえたらいけないのでしょうか？」
JICA 古家所長	「それは、たしかに問題にはなっています。しかし、プータンはチベット仏教の国です。捕まえて処分したりできないんです。動物をふくめて生きとし生けるものを殺してはいけないので、GNHの四つの柱のひとつにも、自然との共生があります。そこには動物も含まれます。」
ナレーション	そこに、プータン在住20年の愛甲さんが話に加わってきました。
愛甲さん	「野犬の問題は昔からですが、最近是他にもいろいろな問題がありますよね。」
JICA 古家所長	「それは、どんなことですか？」
愛甲さん	「最近、ティンプーでも車を持っている人が多くなりましたよね。またとてもスピードをだすので、とつても危険です。」
本田さん	「そういえば、環境の事を考えて毎週火曜日がノーカーデーになったということですよね。」
愛甲さん	「たしかにそうですね。最近1月に1回第一日曜日に変更になってしまいました。本当に環境の事を考えているんですね。」
JICA 古家所長	「環境の事といえば、ティンプー市内のごみ処理の問題はどうなりました、板村さん。ティンプーの町もきれいになってきたと思うのですが。」
ティンプー市職員：板村さん	「そうですね、今年の4月にごみのボイ捨て条例ができて罰金が課せられるようになったから、ゴミの不法投棄は少なくなっていますね。ただもつと大きな問題があります。」

愛甲さん	「どんな問題ですか？」	「ごみの処分問題ですね。ティンプーでは1日60tのごみが出るのですが、分別をしていないんです。生ごみはコンポスト処理場に運んで肥料にする予定だったのですが、そこまでいく道が崩れて、ゴミ収集車が入れないんです。すべてのごみは、ゴミ処理場に運ばれてどんどん積み重なってしまいます。もう、ゴミ処理場は満杯状態で上から土をかぶせているのですが、ところどころゴミが顔を出して、すごい数のハエがわいています。」
愛甲さん	「市では対策をたてられないんですか？」	「市では対策をたてられないんですか？」
ティンプー市職員：板村さん	「ごみの分別ができていないのですが、いつのまにか計画がなくなり、この問題に反対しているのも、ボイを含めて3人ほどです。みんなごみ処理の専門家ではないので…、難しいですね。」	「ごみの分別ができていないのですが、いつのまにか計画がなくなり、この問題に反対しているのも、ボイを含めて3人ほどです。みんなごみ処理の専門家ではないので…、難しいですね。」
ナレーション	そこに JICA のシニアボランティアで、人材育成を担当している泉さんが話に加わりました。	そこに JICA のシニアボランティアで、人材育成を担当している泉さんが話に加わりました。
SV：水本さん	「プータンでは若者に仕事がないことも問題ですね。ここ数年でティンプーの人口は爆発的に増えました。これは地方からティンプーに職を求めてきた人もたくさんいるということです。しかし、その人たちに与える仕事がない。」	「プータンでは若者に仕事がないことも問題ですね。ここ数年でティンプーの人口は爆発的に増えました。これは地方からティンプーに職を求めてきた人もたくさんいるということです。しかし、その人たちに与える仕事がない。」
本田さん	「でも、ティンプーは今、建設ラッシュですよ。たぐさんの家やビルが建設中ですが、そうした仕事もあるのではないのでしょうか？」	「でも、ティンプーは今、建設ラッシュですよ。たぐさんの家やビルが建設中ですが、そうした仕事もあるのではないのでしょうか？」
SV：水本さん	「たしかに、そうですね。しかし、お気づきかもしれませんが、そうした建設現場で働いている人の多くはインド人の出稼ぎの人々です。だいたい6,000人から10,000人いるとされています。プータンの若者は、そうした汗をかき仕事はやりたがりたらないのです。」	「たしかに、そうですね。しかし、お気づきかもしれませんが、そうした建設現場で働いている人の多くはインド人の出稼ぎの人々です。だいたい6,000人から10,000人いるとされています。プータンの若者は、そうした汗をかき仕事はやりたがりたらないのです。」
愛甲さん	「では、プータンの主要な産業である観光業はどうですか？」	「では、プータンの主要な産業である観光業はどうですか？」
SV：水本さん	「プータンの観光業は、国が管理しています。ガイドやコックも国のトレーニングを受けた人しかありません。今、観光会社は90社あると言われていますが、そのうち実際に活動しているのは、半分以上の416社、観光会社として成立して食べていける会社は50社程度しかないでしょう。」	「プータンの観光業は、国が管理しています。ガイドやコックも国のトレーニングを受けた人しかありません。今、観光会社は90社あると言われていますが、そのうち実際に活動しているのは、半分以上の416社、観光会社として成立して食べていける会社は50社程度しかないでしょう。」
JICA 古家所長	「プータンの若者は、政府などに努めたいと思っている人が多いようですね。もしくは医者など。そのためにいい学校にいかなくては、と地方からみんなティンプーに出てきます。そこに格差が生まれているように思います。急速に近代化をすすめているプータンですが、それによって格差社会をうまないことが、GNHの四つの柱の一つ、「健全な経済発展と開発」のはずなんです。」	「プータンの若者は、政府などに努めたいと思っている人が多いようですね。もしくは医者など。そのためにいい学校にいかなくては、と地方からみんなティンプーに出てきます。そこに格差が生まれているように思います。急速に近代化をすすめているプータンですが、それによって格差社会をうまないことが、GNHの四つの柱の一つ、「健全な経済発展と開発」のはずなんです。」
本田さん	「日本にいたときは、幸福の国=プータンというイメージがありましたけれど、プータンもたぐさんの課題を抱えているんですね。GNHが国の方針というけれど、プータン人たちが本当に幸せなんでしょうか？」	「日本にいたときは、幸福の国=プータンというイメージがありましたけれど、プータンもたぐさんの課題を抱えているんですね。GNHが国の方針というけれど、プータン人たちが本当に幸せなんでしょうか？」
JICA 古家所長	「そうですね…、JICA はGNHにもとづいてプータンの発展に援助をしているのですが…、お、新しいゲストが来てみたいですね。難しい話だけれど、もう一度乾杯しましょう。」	「そうですね…、JICA はGNHにもとづいてプータンの発展に援助をしているのですが…、お、新しいゲストが来てみたいですね。難しい話だけれど、もう一度乾杯しましょう。」
参加者全員	「それでは、みなさん乾杯!!」	「それでは、みなさん乾杯!!」
	「乾杯!!」	「乾杯!!」